

語り部だより

授業風景

光明寺への

フィールドワーク

10月25日は、光明寺に伺いました。

ここでは、住職の三輪映信さんより、光明寺の歴史のお話を伺い、本堂内を案内して戴きました。浄土真宗である光明寺は、約450年前の永禄6年（1563）に道願が、坊の谷に念仏道場を開いたのが始まり。

「本堂の特徴としては、総ケヤキで高級な木。昭和5年にこの本堂が建立



寄進札の説明を受ける



壁の絵の説明を受ける

された時の資金源に、カナダに行かれた方たちから寄付をだいぶ戴いた。その当時の金額で約5万5千円。今のお金の価値でいうと、四・五千倍の約2億5千万円。」と聞き、驚きました。

しつこい壁の鳳凰の絵は、一昨年の台風で損傷を受け、改修した際に吉原出身の画家である西垣至剛氏に描いてもらったものと説明を受けました。今回、僧侶しか普段は入れないと言われるお内陣の、文化財でもある本尊阿弥陀如来像などを拝観させて戴きました。おジュニアたちは、「お

発行
NPO法人
日ノ岬・アメリカ村
語り部部会
Let's KATARIBE
〒644-0045
美浜町三尾778
旧三尾小学校内
TEL: 0738-20-9015
URL: americamura.wakayama.jp

内陣は極楽浄土を表すということを教えてもらって、そこに入ることは中々ないと思うので、貴重な体験ができた。」と喜んでいました。

報告 三尾

旧三尾小学校にマリオ現れる?!

11月1日の英語の授業には、ハロウィンにちなみ、ケリー先生が、マリオに扮して登場。

ケリー先生は、町内の学校を回る際にも、この服装で自転車に乗り移動されていたとか!!



マリオの衣装で授業を盛り上げてくれました!

田端 美波 (中学3年生)

私は部活の先輩がこの語り部の一期生で、楽しそうだったので、語り部ジュニアに入りました。入ってみると、みんなで英語で交流したり、三尾のPRをしたりと経験したことがないことを、たくさんすることができてとても楽しいです。

これからもっと色々なことを学びたいです。よろしくお願いします。

語り部ジュニア自己紹介

祭本 佳江 (中学3年生)

私は、姉が一期生で活動していた影響もあって興味をひかれ、また英語が好きなので、私も語り部ジュニアへ参加したいと思い入りました。やって損をすることはないと思うと、速決でした。

これからは、しっかり発信できる力を一歩ずつ着実に踏んでいきます。どうかよろしくお願い致します。

法善寺への

フィールドワーク

11月のフィールドワークは法善寺。

まずは、敷地に入ると真っ先に目に飛び込む葉師如来像（御開帳は毎年2月11日）。そして、大パノラマに広がる太平洋。民家が並ぶ三尾の町並み、遠い昔、人々が水平線の果てへと思いを馳せた広い海が一望できる贅沢な景色。歴史を感じる空間に引き込まれました。



寺の歴史を話される岡本浄さん

本堂では、先代のご住職に法善寺の歴史とともにカナダとの深いつながりについてお話を伺いました。カナダから送られてきた小包に付されていた外国の切手、絵はがき、

カナダとの関連が深い多くの物に、ジュニア達も興味津々でした。

昭和60年の改装時に寄せられたカナダドルでの寄付からは、カナダ移民の中で何世代にも渡って伝えられてきた故郷に対する想いが感じられます。ジュニア達にとって、一つまた三尾とカナダをつなぐ深い歴史に触れることができた、良い機会となったのではないのでしょうか。

報告 上山

講師自己紹介

私は美浜町ALTのケリー・マクラクレンです。

町内の小学校・中学校で英語を教えるために、2年前の夏に、カナダのバンクーバーから美浜町にやって来ました。



日本での生活は、私の人生で最高の経験です。たくさんの美しい場所を訪れたり、文化や食べ物を経験したり、そして多くのすばらしい人々と出会ったり。

中でも私の生活をより有意義にしてくれているのが、三尾での語り部

ジュニアの活動です。私はカナダと三尾の歴史を、情熱を持って学んでいる語り部のスタッフやジュニア達に大きな影響を受けています。

私の祖先であり、家族のルーツでもあるカナダ移民について学ぶことは、私にとってとても心に残る事です。語り部の活動に関われることができることを、とても幸運に思います。

私はもうすぐカナダに戻ります。しかし、カナダに帰国した後も、この語り部ジュニアの活動に関わっていきたいと思います。この先もずっとカナダと日本が交流していくことを願っています。

**リモートで
京都&東京と交流!**
12月28日は、9月まで三尾で生活していた岩永淳志さんと三尾たかえ館長らが、大学生京都外大、東大にカナダミュージウムをオンラインで紹介しました。

語り部ジュニアの4名も参加し、グループに分かれて、大学生とフリートークを行いました。なごやかな雰囲気の中、ジュニアたちは自分を、そして「三尾」をアピールしていました。
コロナ禍で往来ができません

ない中でのオンライン交流は意義深く、ジュニアたちの新たな学びの場となりそうです。
この企画を立案、運営してくださった京都外大の河上先生、三尾たかえ館長、岩永君はじめ各大学生のみなきさん! Good Job!でした。
ありがとうございました。



オンライン交流風景

報告 柳本

NEWS

12月3日、私たちも繋がりある河上幸子先生(京都外国語大学)より、当法人理事メンバーらに対し、三尾のカナダ移民の歴史研究を日本とカナダの研究者が共同して取り組む「共同研究」についての説明がありました。この研究に当法人も連携していきます。

一昨年、来日された三尾にルーツをもつ日系三世のLisa

三尾の自慢・見どころ紹介 三尾の伊勢えび

11月に入り、三尾では、伊勢えび漁が行われています。この漁は、11月から翌年3月まで行われ、冬場の漁家の生活を支えています。



えびを網からはずす漁師さん

「習ったのではないかと話されていました。」

古くより、三尾は漁業で発展してきた歴史があります。伊勢えびは、三尾の名産品! その資源を守るといことは、漁家の生活や漁業、そして故郷を守ることではないでしょうか。大切にしたいものです。

*伊勢えびが採れるのは、漁業権のある漁師さんのみです。もし釣れても、返してあげてくださいね。



村尾敏一さん(三尾漁業組合長)は、「湾内が禁漁区となったのは大正時代からであり、陸地から石を集め禁漁区内に沈設し保護区を設けるなど、今でいう資源管理の必要性は、資源管理の先進地であるカナダに見

編集後記

「語り部だより」を前号より、美浜町内で回覧させて頂くことになりました。当初の配布は、三尾区民と関係者のみでしたが、より多くの方に知ってもらったほうが良いとお言葉を戴きました。いつか、町内の方々にジュニアたちが、ご案内できる機会を持ちたいと思います。